



中学校指導事例

第1学年「心身の発達と心の健康」



埼玉県熊谷市立大原中学校
教諭 今成 友美

(公開時：熊谷市立熊谷東中学校)

学校の概要

熊谷市立熊谷東中学校

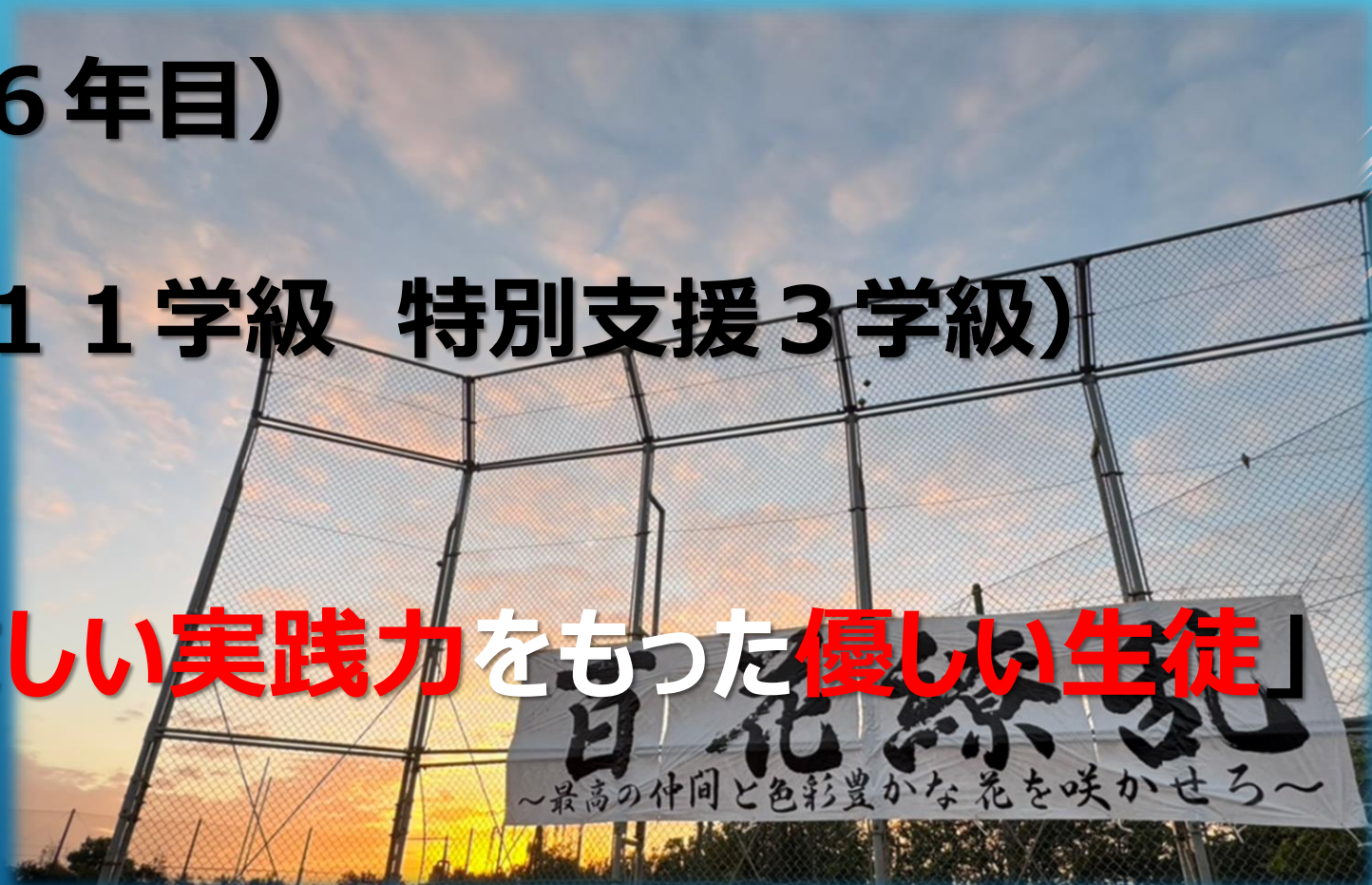
開校：昭和36年（66年目）

生徒数：389名

学級数：14（通常級11学級 特別支援3学級）

学校教育目標

「正しい判断力とたくましい実践力をもった優しい生徒」



指導内容の系統性

小学校

「体の発育・発達」 4 年

体の発育・発達
思春期の体の変化

より実践的に

中学校

「健康な生活と疾病の予防」 3 年

感染症の予防

「心身の機能の発達
と心の健康」 1 年

生殖に関わる機能の成熟と
適切な行動

より科学的に

高等学校

「生涯を通じる健康」
生涯の各段階における健康

「現代社会と健康」
現代の感染症とその予防

より総合的に

生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成

改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引（文部科学省R2，3）を参考に作成

指導内容の系統性

中学校「心身の機能の発達と心の健康」(1年)

1 時間目

「体の発育・発達」

- ・「発育」とは大きさが増すこと、「発達」とは働きが高まること。
- ・思春期には男女それぞれの体の特徴があり、その時期や程度には個人差があるということ。

2 時間目

「呼吸器・循環器の発達」

- ・呼吸器、循環器の発達により肺活量の増大や呼吸数の減少があること。
- ・思春期に適切な運動を行うことにより持久力が高まり、呼吸器・循環器が発達すること。

3 時間目

「生殖機能の成熟①」

- ・思春期になると男女の体つきは個人差で変化が見られ、女子には排卵、月経が起こること。
- ・月経が起こると新しい生命を誕生させることが可能になるということ。

指導内容の系統性

中学校「心身の機能の発達と心の健康」(1年)

4 時間目

「生殖機能の成熟②」

- 射精の仕組みや受精と妊娠の関係性があること。
- 射精が起こると新しい生命を誕生させることが可能になるということ。

5 時間目

「性とどう向き合うか」

- 思春期は、性機能の成熟に伴い、性意識の変化が現れる時期であるということ。
- 身近に様々な性情報があり、正しい情報を選択し、適切な行動・対処方法があるということ。

生徒の実態

知識及び技能

小学校第4学年 履修済
「体の発育・発達」の単元

- 「性」への意識が非常に高い。
- 自分の体が「大人」に近づいていると感じている生徒が多い。

△日常生活での知識・技能の活かし方

思考力、判断力、表現力等

- 対話的活動（班やグループで協力して課題に取り組める）
- 自分の考えを表現する力がある。

△消極的な生徒もいる

学びに向かう力、人間性等

- 明るく前向きな生徒が多い。
- 客観的に物事を判断して言及することができる。
- △意見の食い違いや捉え方に差がある。
- △考えていることや、疑問に思ったことをすぐに発言してしまう。

✓ 「性」に関する意識を高め、「自分ごと」として捉えさせる。

「性に関する指導」で期待すること 上位3項目について

- 1 学校では**正しい知識**を教えて欲しい。
- 2 将来**正しく選択して適切に行動**してもらいたい。
- 3 相手に対して**思いやる気持ち**を持って欲しい。

保護者への発信方法

- 学年日より
「性に関する授業」が保健科で始まったこと。
- クロストーク（導入時）
毎時間、取り入れているクロストークの意義・意味について等。



保護者の願い

- ①正しい知識の習得 ②学んだことを実生活で生かす

導入

前時の振り返り Kahoot！を使用

学びの楽しさ新発見！

クイズ形式で楽しく復習！



ICTを効果的に活用し、形成的な評価につなげる

「意欲」「関心」を引き出す

全員が発問に対して解答し、授業へ参加意欲や参加する姿勢が大きく向上した。授業後の生徒アンケートでは、「自分がどの程度理解できているかわかった」「ゲーム感覚で楽しく学習できた」「前よりノートをしっかりとるようになった」などポジティブなフィードバックが得られた。



生徒の特性にあった学習方法で保健学習を進める

正しい「知識」を定着させる！

単元の導入のみならず、
復習でも活用可能



導入

ICTを効果的に活用



導入

クロストーク（2分）

（目的）自分の思いや考えを言葉にして
相手に伝える力を養う

<クロストークのルール>



- ① 自分の考えを伝える
- ② 時間いっぱい話す（2分間）
- ③ 仲間の発言に対して否定しない

導入

クロストーク（例）

- * 思春期になると、どんな体の変化が起こるのだろうか？
- * 体の変化は誰にでも同じように起こるのかな？
- * 健康的な生活を送るには、どんなことが大切？



クロストークの発問（ポイント）

根拠を問う発問 学習目標に迫る発問
科学的な原則や概念に基づいた発問



日常生活に結び付く、具体的な事例

導入

好きな相手に嫌われないように、言いなりになること
はいけないことなの？

クロストーク内容

自分の考えを相手に伝える

見方・考え方を働かせる場面

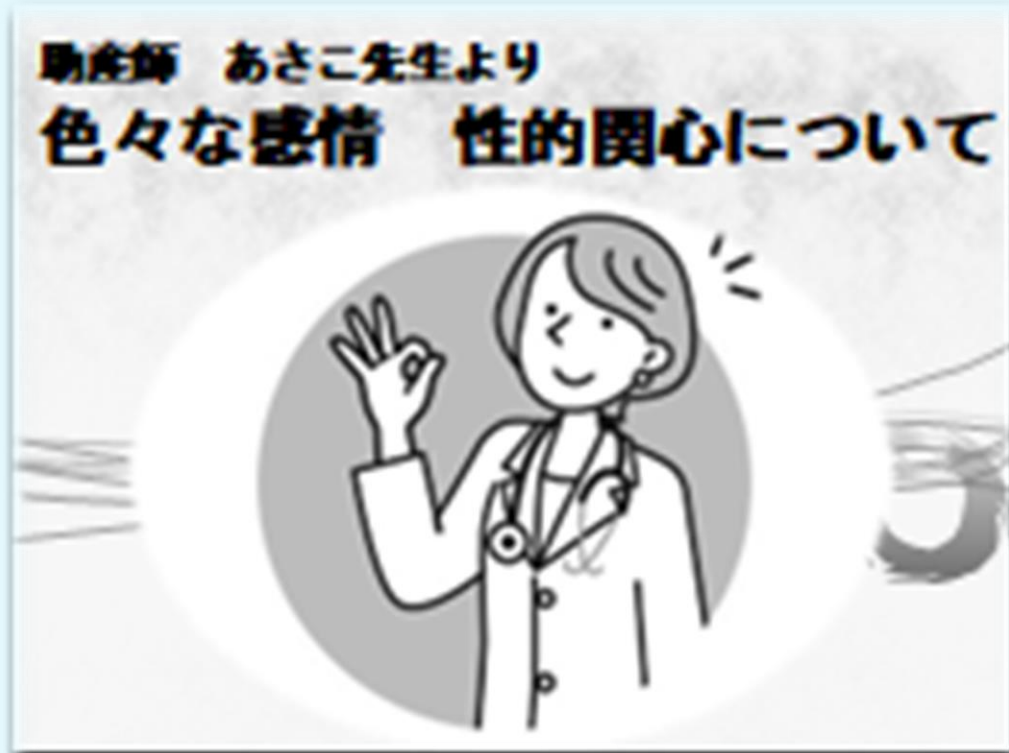
生徒たちは、2分間のクロ
ストークで、**自分の考え**を
相手に伝えようとしていた。

展開

性意識の変化について知る

スライドを用いて、性意識の変化について確認
性的欲求が強くなり、性衝動が生じることを知る。

外部講師の活用



展開

ふれあいサイコロゲーム



ルールを理解させ 活動がスムーズにできるようにした。

ルールの確認

①出た目のふれあいをして良いか相手に聞く

②返事をする

③相手に断られたら、やらない。相手に対して怒らない。泣かない。不機嫌な態度にならない。

The illustration shows two children, a boy and a girl, standing and talking. To their right, there is a crossed-out illustration of two children in a physical fight, with a large 'X' over it.

出た目の「ふれあい」をして良いか・・・相手に聞いて、やってみる

展開

ふれあいサイコロゲーム



さいころの目（種類）



握手

肩を組む

肩もみ

頭を
なでる

ハイタッチ

膝に
のる

①隣同士（異性）

②自由な仲間同士（指定なし）

展開

ふれあいサイコロゲーム



黒板掲示

- ①見て分かる
- ②簡潔に
- ③多視点表現

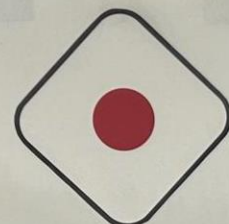


学習課題

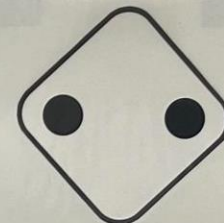
思春期における性意識の変化に伴い、
適切な行動選択をするには どうすれば
よいだろうか？

クロストーク

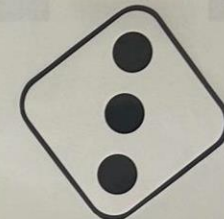
「好きな相手に嫌われないように、言いなりになることはいけないことなの？」



あく 握手 しゅ



肩をくむ



肩もみ



頭をなでる



ハイタッチ



ひざ **膝**にのる

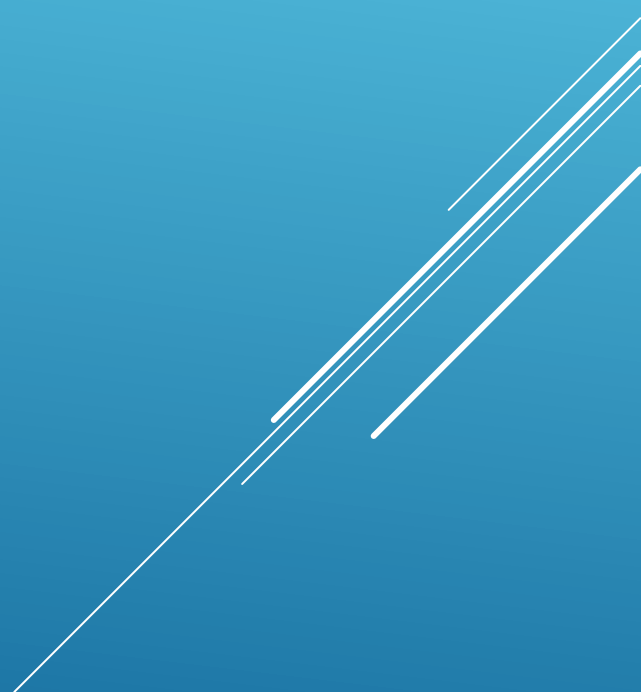
展開

ふれあいサイコロゲーム



親しい仲間でも時と場合によって変わる。
目には見えない色々なことが関係している。

活動の様子 ふれあいサイコロゲーム



生徒の感想より

ふれあいサイコロゲームを終えて

体験から 学ぶ 感じる 生かす

ふれあいサイコロゲームをして、同性と、異性では、できること、できないことが、おま

いことが、わかりました。性意識には、ほかのと同じで個人差があることが

学習をして、よくわかりました。ふれあいは自分と、あつて、いかにやるかということがわかりました。

【見方・考え方】今日の授業を振り返り、感想を書いてみよう。

性意識には「個人差」がある。

同性と異性で、できること・できないことがある。



生徒の感想より

ふれあいサイコロゲームを終えて

体験から 学ぶ 感じる 生かす

同性とは、サイコロゲームで楽しくできたが、異性だと、気ま
ずい感じなりました。男女の接しやすさの違いを理解
できました。



同性とは楽しくサイコロゲームができた。
異性は気まずい。男女の接しやすさの違いを理解

まとめ

言葉は「掲示物」として残す

正しい知識は、お守り

「ココロ」が動いたときに、正しい知識があったら、それをもとに、どうしたら自分を、相手を、大切にできるか、考えることができる大人になります。

それぞれの思いを否定せずに、受け入れることができたなら、素敵

自分の気持ちに素直になること、相手の気持ちを考えることもとても大切

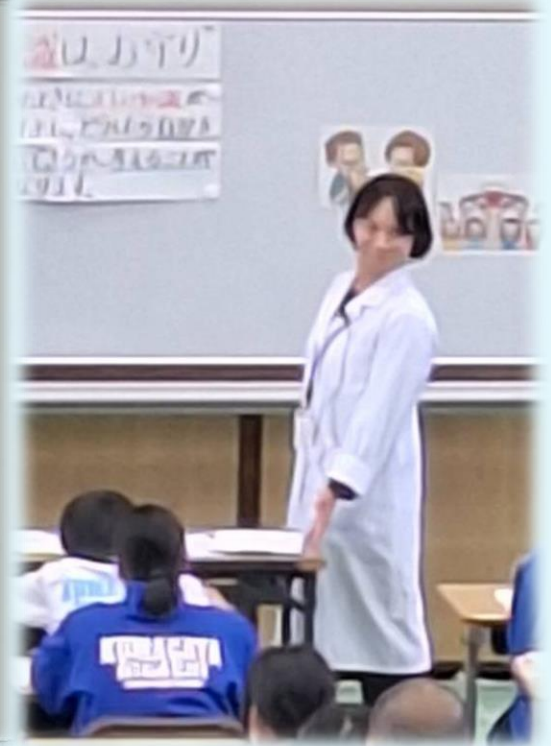
気持ちにフタをしたまますれ違って、
しまうのは、もったいないよね。

生まれてきてくれて、
ありがとう。



ここまで元気に成長
してくれて、ありがとう。

今の自分を大切にすることが、未来の
自分を、大切にすることにつながる。



助産師(講師)の言葉

成果と課題

○行動選択についての理解

異性への尊重 性情報への対処など
性に関する適切な態度や行動の選択について、理解することができた。

○ふれあいサイコロゲーム 体験から学び考える

ふれあいサイコロゲームを通して、適切な対処方法を学び、嫌な時は「嫌だ」「やめて」と相手に伝えること、自分の気持ちに正直になることの大切さを学んだ。

成果と課題

○保護者との連携 **保護者の理解を得る**

保護者アンケートを実施し、保護者の願いを把握
授業内容等を学年だよりで発信(定期的に)

●外部講師の活用 **より深い学びへ 高い教育効果**

目的や価値を明確にし、十分な打ち合わせを行い、指導
してもらいたい内容を共通理解

ご清聴ありがとうございました。

